令和７年度
世田谷区姉妹都市
中学生教育交流事業
（オーストラリア・バンバリー市）
活動報告書

世田谷区

目　　次

発刊に寄せて　世田谷区長　保坂　展人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
世田谷区教育委員会 教育長　知久　孝之・・・・・・・・・・・・・・2

派遣事業について
派遣前・後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
派遣日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
派遣の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
生徒からの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
引率者より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

関連資料
バンバリー市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
世田谷区とバンバリー市の交流の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４

発刊に寄せて

世田谷区がバンバリー市に初めて小学生を派遣したのが１９９１年（平成３年）、その翌年、１９９２年（平成４年）に姉妹都市提携が結ばれました。以来、小学生の相互派遣を中心に、マラソン大会への市民ランナーの相互派遣や写真展の相互開催など交流を重ねてきました。

バンバリー市との中学生を対象とした交流事業は、２０１６年度（平成２８年度）よりはじまり、今回で４回目の実施です。

まずは世田谷の生徒のみなさんが、元気に派遣期間を過ごせたことを大変うれしく思います。９月の派遣事業では、バンバリー市長への表敬訪問のほか、現地の生徒たちと共にバンバリー市の豊かな自然の中で校外学習を行いながら、週末に滞在したホストファミリーや市民のみなさんから心温まる歓迎を受けたと聞いています。現地ならではの生活や文化、考え方・価値観を肌で感じ、理解するとともに、日本の生活や文化を見つめ直す貴重な機会になったのではないでしょうか。

みなさんは、「姉妹都市との架け橋」という、区の代表として重要な役割をしっかりと担ってくれました。今後、世田谷でも外国人住民の増加や多国籍化が見込まれる中、みなさんがこの取組みで学んだことや経験をぜひ学校や地域へ生かしていってください。

そして、世界を視野に入れながら、今後の学校生活や人生を充実させていってほしいと思います。この経験が、みなさんにとって国際社会で活躍していくうえでの貴重なステップとなり、更なる成長につながることを期待しています。

最後になりますが、バンバリー市のミゲル市長及び市の関係者のみなさま、交流校のマネア・シニア・カレッジの先生方には大変お世話になりました。そして、引率の先生方をはじめ、各中学校の先生方、保護者のみなさま、区内関係者のみなさまのご協力に心から御礼申し上げ、私の巻頭の言葉とさせていただきます。

令和８年３月

世田谷区長　保　坂　展　人

発刊に寄せて

世田谷区では、あらゆる国や地域の人々との交流や多様な文化に触れる機会を通して、語学力のみならず、相互理解や価値想像力、社会貢献意識などを高め、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、地球規模の視野をもち、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成を図っています。

今回、公募により多数の応募者の中から選抜された区立中学校２年生の代表生徒は、バンバリー市を訪れるにあたり、事前・事後、そして現地での学習を通じて探究的な学びを体現することができました。

また、派遣先では、バンバリー市長表敬のほか、現地学校での生徒同士の交流やホームステイ体験など、バンバリー市の皆様から温かい歓迎を受けたと聞いています。この派遣を通して得た貴重な経験を活かし、これからの国際社会で多様性を認め合い誰もが平和的に暮らせる社会の構築のために、みなさんが活躍していくことを強く願っています。

結びに、この海外派遣に際し、多大なるご協力をいただきましたバンバリー市のミゲル市長及びご協力をいただいた姉妹都市委員会や市の担当者の皆様、訪問を受け入れていただいたマネア・シニア・カレッジの皆様に、心よりお礼申し上げます。また、代表生徒の派遣にご理解、ご協力を賜りました保護者の皆様及び中学校校長会、各中学校の先生方、そして引率の先生方に深く感謝申し上げ、私のあいさつといたします。

令和８年３月

世田谷区教育委員会 教育長　知久　孝之

派遣事業について

派遣前・後のスケジュール

項　目	日　程	時　間	会　場	内　容	出席者
派遣決定 通知書交付式 ／第１回 派遣準備会	6 月 15 日 （日）	10:30 ~12:30	教育総合センター	・派遣決定通知書交付式 ・オリエンテーション	生徒 保護者 引率者
第２回 派遣準備会	7 月 20 日 （日）	10:00 ~12:00	梅丘パークホール	・旅行会社からの説明 ・注意事項、渡航準備等	
派遣前 研修会 （全4回）	【第1回】 7 月 20 日 （日） 【第2回】 8 月 3 日 （日） 【第3回】 8 月 17 日 （日） 【第4回】 8 月 31 日 （日）	13:00 ~17:00	【第1～3回】 梅丘パークホール 【第4回】 北沢タウンホール	【第1回】 ・スローガン、役割等決め ・アトラクション検討・決定 【第2回】 ・西オーストラリアに関する学習（西オーストラリア州政府事務所） 【第3回】 ・バンバリー派遣経験者のお話（R5 派遣経験者） 【第4回】 ・国際理解ワークショップ （NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン） ・派遣前の総まとめ（スピーチ・アトラクション） 【全体を通じて】 ・語学学習 ・公式行事等でのスピーチ練習 ・アトラクションの練習	生徒 引率者
第３回 派遣準備会	9 月 7 日 （日）	9:00 ~10:00	梅丘パークホール	・派遣に向けた案内・諸注意 ・出発式	生徒 保護者 引率者
事後研修会	10 月 19 日 （日）	13:00 ~17:00	梅丘パークホール	・報告書、発表スライドの校正	生徒 引率者

派遣日程

日数	月日	時間	スケジュール	服装	宿泊
1	9/11（木）	6:30	世田谷区役所東棟東側駐車場発（6:00 集合）	私服	ホテル
		8:30	成田空港到着		
		10:55	成田空港発　全日空（NH881 便）		
		20:00	パース空港到着後、入国手続き		
		21:00	バスでホテルへ移動。ホテルチェックイン。		
2	9/12（金）	9:00	ホテル発。バスでバンバリー市へ移動。	黒・紺ポロシャツ&落ち着いた色の長ズボン	ホームステイ
		12:00	市長表敬訪問・昼食会		
		15:30～	サウス・ウェスト・ジャパン・フェスティバルへの参加 ＠ Bunbury Senior High School		
			フェスティバル終了後、ホストファミリーと対面。その後、各ホストファミリー宅へ移動。		
3	9/13（土）	終日	ホストファミリーと過ごす	私服	ホームステイ
4	9/14（日）	終日	ホストファミリーと過ごす	私服	ホームステイ
5	9/15（月）	9:00	ホストファミリーの車でホテルまで送迎 ホテルよりバスで移動開始	黒・紺ポロシャツ&落ち着いた色の長ズボン	ホテル
		午前	アボリジナルアート体験ワークショップ		
		昼	昼食		
		午後	山火事に関する講義・ワークショップ		
		17:00	市長歓迎夕食会＠Koolambidi Woola		
		夜	ホテル着。ミーティング、入浴、就寝		

派遣日程

日数	月日	時間	スケジュール	服装	宿泊
6	9/16 （火）	9:00	ホテルよりバスで移動開始	私服	ホテル
		午前	マネア・シニア・カレッジ見学 バンバリー・ワイルドライフ・パーク見学		
		昼	昼食		
		午後	Noongar 文化ワークショップ ＠ Koolambidi Woola		
		夕方	夕食		
		夜	ホテル着。ミーティング、入浴、就寝		
7	9/17 （水）	9:00	ホテルよりバスで移動開始	私服	ホテル
		午前	バンバリー港見学 Bunbury Museum and Heritage Centre、市内ウォールアート見学		
		昼	昼食		
		午後	ドルフィン・ディスカバリーセンター見学 マングローブ散策 Bunbury Geographe Motor Museum 見学		
		夕方	夕食		
		夜	ホテル着。ミーティング、帰国前の諸注意、荷物整理		
			入浴、就寝		
8	9/18 （木）	9:00	バスでパース市内へ移動	黒・紺ポロシャツ&落ち着いた色の長ズボン	機内
		11:00	フリーマントル地区見学・昼食		
		14:00	西オーストラリア・日本教育文化センター（JECCWA）訪問 パース総領事面会		
		15:30	キングスパーク見学		
		17:00	夕食		
		18:45	バスでパース空港に到着		
		21:35	パース空港発　全日空（NH882便）		
9	9/19 （金）	8:15	成田空港着	私服	
		12:30	世田谷区役所西棟北側駐車場到着・解散		

派遣の様子

出発（世田谷区役所）

ファーマーズマーケット（市内）

バンバリー市長表敬

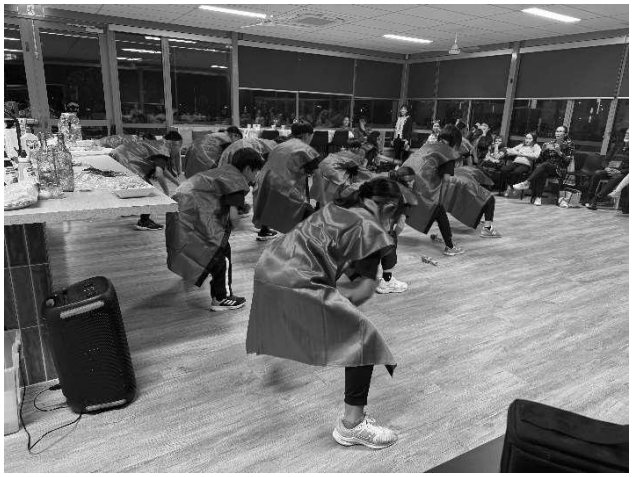
サウス・ウェスト・ジャパン・フェスティバル

アボリジナルアート体験ワークショップ

山火事に関するワークショップ

派遣の様子

Noongar 文化ワークショップ



歓迎夕食会（市内）

ドルフィン・ディスカバリーセンター見学（市内）

ウォール・アート散策（市内）

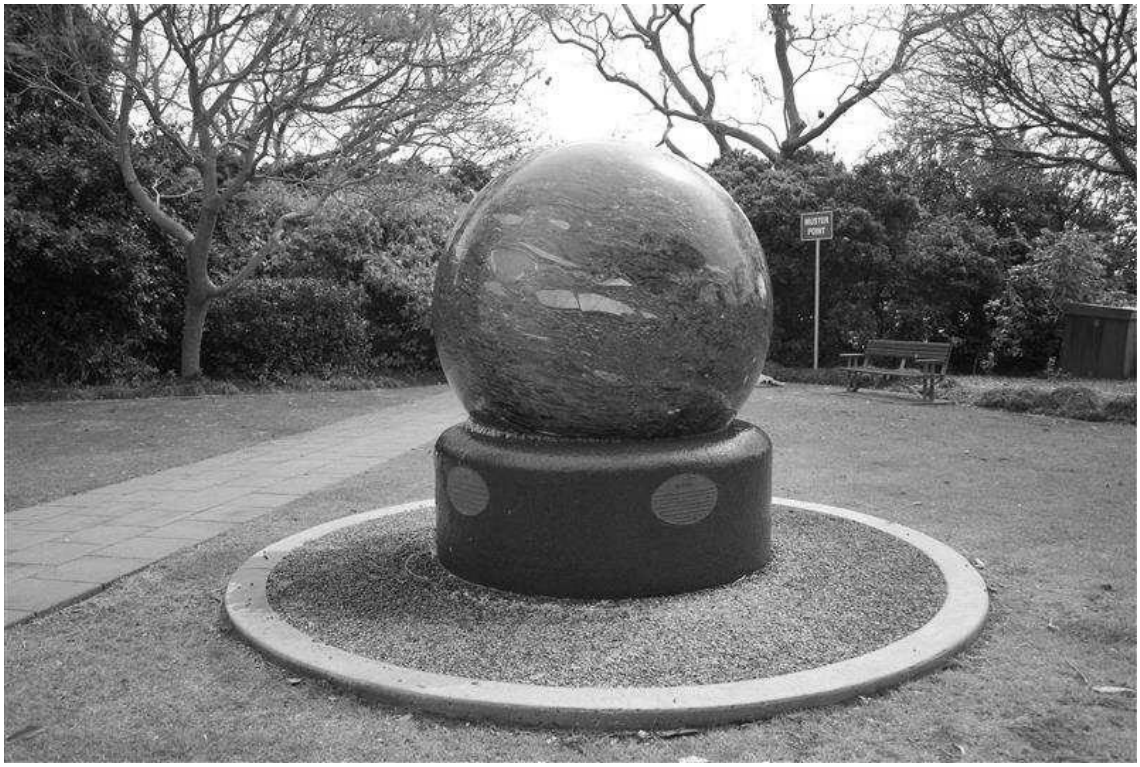
マングローブ散策（市内）

西オーストラリア・日本教育文化センター（JECCWA）訪問

生徒からの報告

（感想文・まとめスライド）

テーマ「派遣で印象に残ったこと・学んだこと」



人々と環境の結びつき

K.S.

今回、親善訪問団としてバンバリーを訪れた私たちを、多くの人があたたかく迎えてくれ、交流することが出来ました。私たちに現地の学校を紹介し案内をしてくれたマネアシニアカレッジの先生や学生、ブッシュファイアという山火事の消火活動を行っている団体の方々、ホストファミリーやバンバリーの歴史博物館で案内してくれた方々などが、私たちにバンバリーの魅力や現状を教えてくれました。

その中で私が特に興味を持ったのは、ブッシュファイアのボランティア活動です。私たちは山火事に関する講義を受け、実際に現場で使われているホースで消火体験をしました。現在のオーストラリアでは直近 5 年間で約 1300 件の山火事が起きています。30 億匹近くの動物（哺乳類、爬虫類、鳥類など）が命を落としたり、生息地を失ったり、日本の国土の約半分が焼失してしまったりなど、深刻な被害がでています。よく、油分の多いユーカリの葉が擦れて摩擦熱で山火事が起こると言われますが、多くの山火事は記録的な干ばつと高温、強風といった気象条件が重なったことや放火が原因で発生します。

ブッシュファイアのボランティアは、その大規模な山火事を消す仕事をします。山火事が起きた時にすぐに現場に駆けつけ、火を消したり、最小限に抑えたりする活動をしています。実際に山火事に立ち向かうのでとても危険です。なぜここまで危険なボランティア活動に参加するかが気になり、聞いてみました。「オーストラリアは広大で、それに対して山火事を消す消防士が少ない。そのため、自分もこのボランティアに参加し、少しでも多くのオーストラリアの自然を守りたいから。」と教えてくれました。

オーストラリアの人々はとても自然を大切にしていました。私のホストファミリーが連れていってくれたところでは、道路のすぐそばに何 10 頭もの野生のカンガルーが群れていたり、海には野生のイルカがすぐ近くを泳いでいるのが見えました。オーストラリアではイルカを保護する法律もたくさんあり、野生のイルカに近づく接近距離や保護以外の捕獲が禁止されています。また、バンバリーにはディスカバリーセンターがあり、そこでは海の環境の現状を身近に知ることが出来ました。オーストラリアでは自然なかたちでそこに住む生き物を守ろうとする人たちの気持ちが様々なところで感じられました。私も住んでいる地域や身の回りをよりよくするために自分に何ができるのか考えて行動していきたいです。

＜オーストラリアで訪れた場所＞

＜CITY OF BUNBURY＞

ここでは、バンバリー市長さんや市議会委員さんたちに会い、アトラクションを披露しました。また、普段はどのようにここを使っているのかなどを教えていただきました。

＜Busselton Marine Discovery Centre＞

ここは私のホストファミリーがつれていってくれた環境を学べる場所でした。

＜BUNBURY WILDLIFE PARK＞

ここでは、オーストラリアで有名なカンガルーやエミュー、クオッカを見ることが出来ました。

＜オーストラリアのボランティア＞

＜ブッシュファイアのボランティア活動＞

←オーストラリアの自然を守りたいからという思いからボランティアに参加

環境と人々の思いが結びつく

＜私のホストファミリー＞

日本に興味があるという思いからボランティアに参加→

ブッシュファイアのボランティア活動はオーストラリアで発生する大規模な森林火災の消火活動を行う活動です。なぜこのボランティアに参加しているのかと聞くと、「オーストラリアには、消防士さんが足りません。そのため、ボランティア活動を通し、自分もオーストラリアの自然を守っていきたいから。」と教えてくれました。

私のホストファミリーは学校で日本について学び、日本の言語と文化に興味を持ちました。そこで、私たちを受け入れていただき、姉妹都市であるバンバリーと世田谷区の交流が出来ました。

海外派遣を通して

I.G.

今回の派遣は、私にとって本当に初めてのことばかりでした。私はこの派遣を経験するまで一度も海外を訪れたことがありませんでした。日本の同じ文化や言語を用いる人としかほとんど接したことがなく、オーストラリアに着いたときも、これから本当にやっていけるのだろうか、と不安でいっぱいでした。

最も印象に残っているのは、2 日目にホストファミリーと対面した時でした。英語で話しかけられた時、「日本人にはもう頼れない」「自分でオーストラリアに適応するしかない」そう痛感しました。最初の頃は英語がなかなか出てこず、ホストファミリーの方々との会話もなかなかうまくいきませんでした。それでも、相手と必死にコミュニケーションを取ろうという意識を持って生活したことで、徐々に会話ができるようになりました。人生で初めて、「英語で会話が通じる喜び」を感じた瞬間でした。

私はこの派遣を通して、相手とコミュニケーションをしようとすることの大切さを身をもって体感しました。普段、日本という同じ言語・文化の国では、会話することは「当たり前」のように思えてしまいます。しかし、立場や文化の違う人とは簡単に意思疎通ができません。それでも、絶対にコミュニケーションを取るんだという強い意志があれば、外国の方との会話でも必ずできるはずです。もしこれから異文化の人と関わる機会があっても、コミュニケーションをしようとする姿勢を大切にして関わっていきたいと思います。

海外派遣に参加できたからこそ、海外でしか得られない視野を広げることができたと思います。この貴重な体験を生かし、将来に役立てていきます。

今回この派遣に携わっていただいた引率の方々、現地の方々、並びにたくさんの人に支えていただきました。支えていただいたからこそ今回のような貴重な経験ができました。本当にありがとうございました！

これからも、世田谷区とバンバリー市の絆が永遠に続くことを願います。

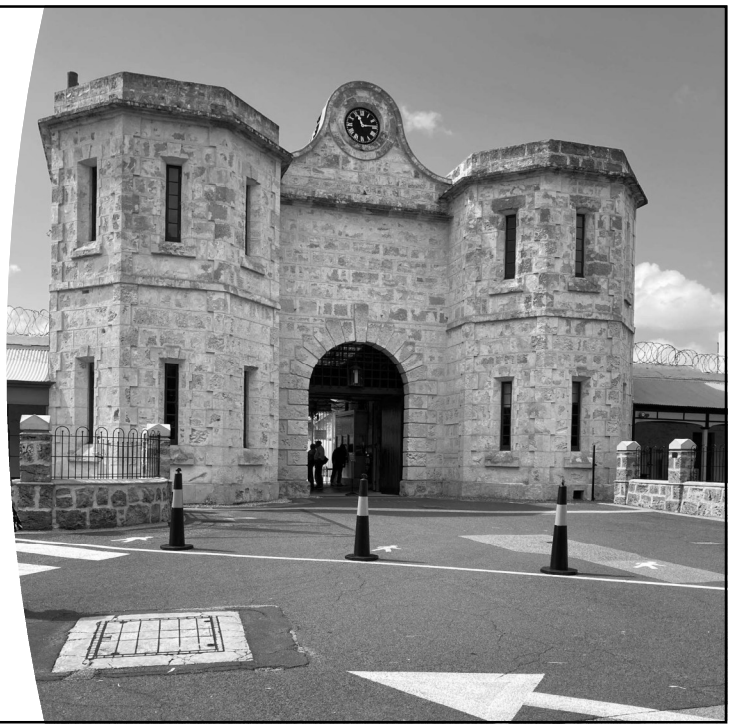
西オーストラリアの美しい街並み

フリーマントル刑務所

現在は世界遺産として保存

植民地時代にイギリスの囚人の収容施設

140年間にわたって収監



パースの港町フリーマントル

・近代的な高層ビルや現代アート
→*バンバリーにもアートが残る*

・伝統的な美しい街並み
→植民地時代の建築物がそのまま

2つの調和が美しい街並みを生む

オーストラリアと日本の違い

J. K.

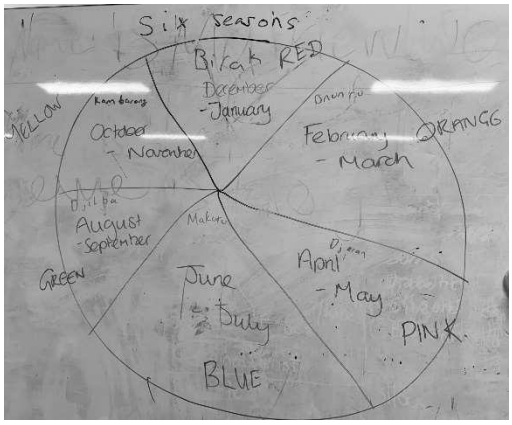
今回、僕たち派遣団はオーストラリアのバンバリー市を訪問しました。現地ではホームステイをしたり学校訪問や異文化体験などをすることができました。

今回の派遣で最も印象に残ったものはオーストラリアの学校訪問です。

オーストラリアの人たちはとてもフレンドリーで、カメラを持っていると「写真撮って！！」と英語で声を掛けられ、とても楽しかったです。

学校内でマリオカート大会をしていて日本とは違って自由な時間がありとても面白かったです。

また、学校には売店があり、長い休み時間にちょっとした軽食を食べることができます。私はいつも三時間目くらいにお腹が空いてしまうので日本の中学校でも売店があったらいいなと思いました。

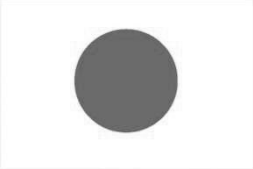


日本は春、夏、秋、冬と４つの季節に分かれていますが、オーストラリアは６つの季節に分かれていると学びました。12 月から１月がビラクという暑い季節で、日本の夏とは違ってかなり乾燥しているそうです。2 月～3 月はブヌルで、一年で一番暑い季節になります。4 月～5 月はジェランで、湿度が高くなり、涼しくなります。6 月～7 月はマクルで、一年で最も寒く、雨の多い季節です。8 月～9 月はジルバで、雨の多い日と、澄んだ寒い夜が増え、心地よい温かい日が混在している季節です。10 月～11 月はカンバランで、暖かくて湿度が高く過ごしやすい気候の季節です。

オーストラリアの先住民には様々な呼び方があり、人によっては不快になってしまう呼び方もあります。オーストラリアの人は先住民の文化をとても大切にしていていい国だなと思いました。

私もオーストラリアの人たちのように色々な人の文化を尊重できる人になりたいです。

日本とオーストラリアの交通の違い



主な交通機関	基本は車	車、バス、鉄道
時間の正確さ	すごくルーズ	超正確
支払い方法	QR式の電子チケット 切符	ICカード 切符

パースの公共交通機関

パース市内を走る電車

パース市内を走るバス

生き方が変わる９日間

T.C.

私は家族以外の家で暮らしたことも、海外も、飛行機も経験したことがなく、この海外派遣は私にとってとても思い出深く、大切で貴重な経験になりました。ただ、言語が違う未知の世界に私は楽しみな反面、不安がありました。

しかし、オーストラリアについてからは目に入るもの全てが日本では見ることができない光景で、楽しく思いました。心配だった言語も現地の方がわかりやすい英語を使ってくれたため、返答したり、自分から話しかけたりして、楽しくコミュニケーションを取ることがたくさんできました。

私が特に印象に残ったことは２つあり、１つはホームステイです。初対面の方と３泊４日も過ごすことに緊張していたのですが、ホストファミリーはとても親切で温かく私を迎えてくれました。そのため、最初は長いと思っていた３泊４日はあっという間に終わってしまい、すごく悲しかったです。ホストファミリーの方と一緒に折り紙を折ったことや英語の絵本を読んだこと、いろんな場所に連れて行ってくれたことなど全て、一生忘れることはないと思います。

もう１つはオーストラリアの環境です。スーパーマーケットでは、日本では見ることができないような数えきれないほどの美味しそうな青果が大量に並んでいました。また、レジ袋は紙袋で、日本とは違い値段もかかりませんでした。オーストラリアは建物が低いと聞いていたり、一昨年度バンバリーに行った先輩方の資料を見ていたりしていたので、それを自分の目で確かめることができて本当に嬉しかったです。建物が低いのは本当で、上を見た時、視界に建物が入りづらいため空がとても広く見えました。また、屋根は赤色、全体的には白色が多くて、見た目が絵本などで見たようなおしゃれな家ばかりで、素敵な街並みでした。また、ネットなどで写真を調べても断片的な一部しか見られないのに対し、現地に行くことで360 度、自分が見たい位置で見ることができて自分を囲う空間全てが非日常になって本当に貴重な日々を過ごしました。

この海外派遣を機に、私の価値観はガラッと変わりました。この９日間で今後もっと海外の人と関わる生活になっていくことを実感しました。将来は日本で働こうと思っていたけれど、もっといろんな国に行っていろんな人たちと関わり、今度は世田谷区だけでなく日本をいろんな国や人とつなげられるような存在になりたいと強く思うようになりました。言葉だけでなく文化を通して交流するこの派遣を支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

オーストラリアの日常

・食卓には、日本の白米と同じような感覚でポテトが並ぶ。フライドポテト以外にも、お芋の漬物やじゃがバターのようなものもあった。

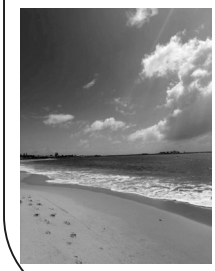
・日曜日には礼拝をしに教会にいく。
自由なスタイルの教会で、想像していたよりも歌がポップだったほどイエス様を賛美した。
合計二時間ほど賛美していた。

・雨の日には食べられるくらい大きいカタツムリが大量に出る。
植物を食べるため、害虫扱い。

オーストラリアの景色・建造物

日本にはない外見の建物で、すごく綺麗。
街の至る場所に**ウォールアート**が施されていた。

⬅フリーマントル刑務所
州立戦争記念碑➡
第一次世界大戦で戦死した兵士を追悼するために建てられた
世界最大級の都心公園



島国であることに加え、海沿いの街だから、行く先々でたくさんの海を見た。
イルカもみれた

充実したオーストラリアでの９日間

T.Y.

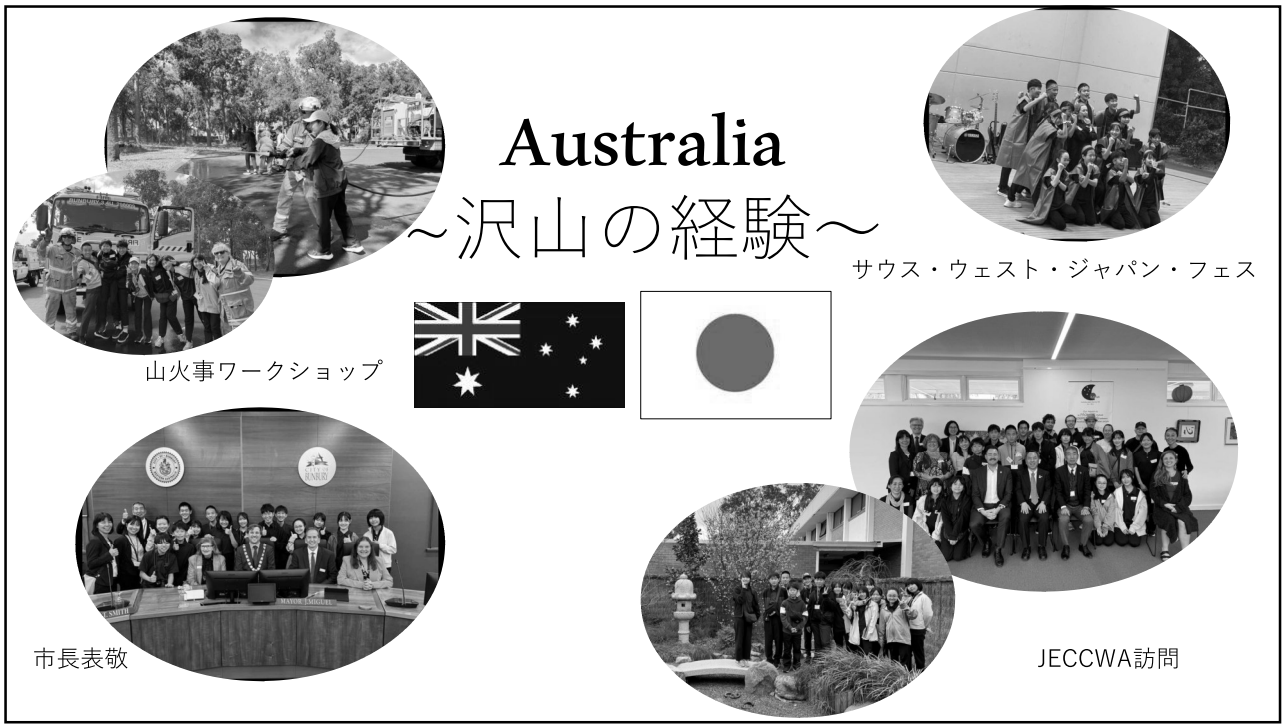
今回の派遣で特に印象的だった３つを紹介します。

初めにオーストラリアの歴史や文化との向き合い方です。オーストラリアは、イギリスによって植民地にされた歴史があります。最終日に行ったパースのフリーマントル刑務所は、当時オーストラリアを植民地にする際、イギリスから労働者として連れてこられた囚人を収容していた施設です。この施設には当時の囚人の生活や歴史についての展示があり、興味深かったです。オーストラリアの先住民について学校で習った“アボリジニ”は差別的な呼び方であって、今は「アボリジナル」や「ファーストネーションズ」と呼ぶことを知りました。また、アボリジナルの文化体験に参加しました。そこではアボリジナルの季節についての考えに触れたり、挨拶や食文化を経験したりしました。学んだことで自然に対する私自身の視野が広がったと考えます。オーストラリアの人々は、先住民に対してのリスペクトがあり、歴史を学び、過ちを二度と起こさないように次世代に体験を通して伝えていると考えました。

次に自然との向き合い方です。オーストラリアには固有種が沢山あります。固有種を守る団体として山火事の消防団があります。オーストラリアでは様々な理由でよく山火事が起きます。山火事は固有種の植物が燃えてしまったり、そこに生息していた動物の住処がなくなってしまいます。山火事が起きた際、規模にもよりますが。、消防署の消防士が初めから火事に対応するのではなく、地域のボランティアで形成された消防団が出動します。もちろんボランティアなので給料は出ませんし、会社によっては出勤していないその分の給料を出さない職場もあるそうです。そのため、ボランティアの人達をとても尊敬しました。

さらに、オーストラリアの多文化社会についてです。オーストラリアには、沢山の国から人が移り住んできています。私のホストファミリーは、スイスから引っ越してきた家族でした。また、ホストブラザーが所属しているサッカーチームには、ヨーロッパ系やアジア系、アフリカ系の様々な人達が所属していました。現地で多文化社会という言葉の意味を肌で感じることができました。

最後に今回の派遣に関わった皆様、沢山を学べる機会を設けてくださってありがとうございます。これからも日本とオーストラリアが良い関係でいられる事を願っています。


Australia
～沢山の経験～
サウス・ウェスト・ジャパン・フェス
山火事ワークショップ
市長表敬
JECCWA訪問

オーストラリアで感じたこと
今ある自然を守り抜く
歴史と文化をリスペクトし、
学びを未来へ伝える
マングローブ散策
アボリジニ文化体験
アボリジナル楽器
フリーマントル刑務所
→イギリスから来た労働者である囚人達が住んでいた場所
→2010年に世界遺産に登録されている

9 日間で得た学びと自発心

M.Y.

私はこの海外派遣で、ホストファミリーや現地の学校の生徒たちはもちろん、ミゲル市長やアボリジニの方々ともお話しさせていただく貴重な機会がありました。異なる国の人と文化や価値観を共有することで教科書を読むだけでは得られない多くの学びを得る事ができました。

ホストファミリーとの初対面は、パースからバンバリーに移動した日の夜でした。その日は自分から積極的に話しかけることができず、ホストファミリーからの質問に簡単な英語で答えたり、部屋の説明を受けたりするだけで精一杯でした。しかし翌日、ホストシスターが一緒にカードゲームをしようと誘ってくれたことをきっかけに、たとえ不完全な英語でも自分の言葉で伝えようと、積極的にコミュニケーションを取ろうと思えるようになりました。私は出発前の作文に、「オーストラリアの投票率の高さに驚いた。オーストラリアの人々と日本の人々では、選挙に対する意識がどのように違うのか直接聞いてみたい」と書きました。このことも自分なりの英語でホストファミリーに質問すると、「選挙は当たり前に行くもの」という認識がありました。日本では去年の衆議院選挙の投票率が 53%だったのに対し、バンバリー市での投票率は 90%超えで選挙への意識が極めて高いことがわかりました。私たち海外派遣団はミゲル市長とホストファミリーでバーベキューをする機会がありました。その体験を通して、市民と市長との距離が非常に近く、世田谷区や日本ではなかなか見られない光景だと感じ、驚きました。市民と距離が近いからこそ、市長の選出がとても重要で、人々が選挙に積極的に参加する理由の一つなのではないかと私は考えました。さらに、初めて訪れる地バンバリー市で、派遣メンバーと協力し合いながら時間を共にしたことで、関係もより深まりました。不安や緊張を抱えながらも一緒に助け合いながら過ごした 9 日間は、信頼と連帯感を育む特別な時間になったと思います。

私にとってこのバンバリーの海外派遣はかけがえのないものでした。海外派遣で自分から話しかけることの大切さを身をもって実感し、この考えをこの先も生かしていきたいです。最後に海外派遣を通して出会えたすべての人々に感謝をし、その感謝を忘れずにこれからも自発心を大事にして何事にも挑戦していきたいです。

バンバリーの人々と政治

オーストラリアの投票率は高い

- 市長との距離の近さ
  - ホームステイの計画を立ててくれた
  - 市長自らBBQ参加
- 投票は当たり前という意識

様々な交流で得られた海外派遣メンバーとの絆

バンバリーに着いた日、派遣メンバーの一人がスーパーの人参に注目。そこで皆で人参の丸かじりをしました。日本の人参よりも甘く、オーストラリアの人参のファンになるメンバーが続出しました！

ジャパンフェスでソーラン節を披露する機会がありました。海外派遣前の研修会からずっと練習してきたソーラン節を無事成功させることができ、仲間との絆もより深まりました。

最初は男女で分かれて行動していましたが、活動が進むにつれ、一つの目的を目指す仲間という気持ちが強くなり、男女の壁を感じる事がなくなっていきました。

たった9日間でしたが緊張したり、衝突したり、悩んだりすることもありました。そのたび話し合ったり、励ましあったりして乗り越えていきました。異国の地だからこそ深まる絆がありました。

初めての海外

A.K.

私は、この海外派遣が初めての海外でした。飛行機を降りるとポスターなども全て英語で、海外に来たんだなという実感が湧きました。9 日間は短くも感じましたが、色々なイベントや体験などに参加し、沢山学ぶことがあったため、長くも感じられました。

この海外派遣で１番印象に残っていることは３日間のホームステイです。ティナ（母親）と好奇心旺盛な年下の女の子、２匹の犬がいました。晴れの日でも雨の日でも充実した予定を立ててくれて、街のカフェやビーチなどに連れて行ってくれました。朝は、スマートフォンのアラームよりも早く鶏の鳴き声で起きて、ご飯を食べた後、犬の散歩に行きました。外の空気が綺麗でホームステイの３日間は目覚めが良かったです。ティナの誕生日が９月 15 日で子供たちと一緒に１日早く誕生日のお祝いをしました。“Happy birthday to you～”と歌った後に、One, two, three…とその人の年まで数えるという習慣があり、とても盛り上がりました。

この海外派遣を通して学んだことは３つあります。１つ目はコミュニケーションというのは言語だけではないということです。ホームステイの２日目でホストファミリーの友達の家に行きました。その友達の家には色んな家族が集まっていて、私より年下の子供達も沢山いました。子供達のスラスラと話す英語は上手く聞き取れませんでしたが、サッカーをやったり、地面に描けるチョークで絵を描いたり、恐竜のおもちゃで戦ったりと、言葉を超えて沢山楽しむことができました。

２つ目はオーストラリアは自然と上手く共生しているということです。ゴミ箱が街に設置されていてポイ捨てをすると重い罰金が課されるため、ビーチなどにも１つもゴミが落ちておらず景観を大事にしていると感じました。

３つ目はオーストラリアはそれぞれの文化を尊重しあっているということです。今回、私は初めてアボリジニの方に実際に会い、アボリジナル楽器の演奏を聞いたり、カンガルーの肉を入れたシチューや伝統的なパンなどのアボリジナルフードを食べました。オーストラリアは欧州系が中心ですが、アジア系の人やアボリジニなど様々な方々がいます。お互いの文化を尊重しあっている姿が印象に残りました。

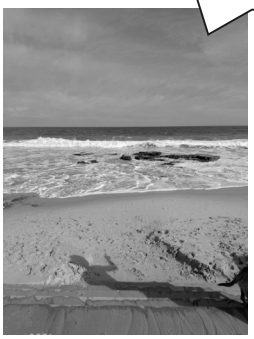
この海外派遣に行けるように様々なサポートをしてくださった保護者や先生方に感謝しています。貴重な体験をありがとうございました。

景観を大事にする

ポイ捨てをすると重い罰金が課される

街に設置されているゴミ箱

広い公園



美しいビーチ

ホームステイ

行ったところ
・ショッピングセンター
・バンバリーミュージアム
・カフェ　・ビーチ

オーストラリアのルールのフットボール

道端にいた鴨の親子

My host family

右の写真はホストファミリーの友達の家で、地面にチョークで絵を描いている様子です。他にもサッカーをしたり恐竜のおもちゃで戦ったり、言葉を越えて楽しむことができました。

多様な文化を持つ人々との出会いから学んだこと

S.Y.

「この海外派遣を通して、異文化に触れ、異なる価値観を尊重する大切さを学びたい」

これは、私が１次選考の作文に書いた文です。海外派遣決定通知が届いた時、喜びや嬉しさが込み上げてきた反面、不安や緊張が募ったことを今でも鮮明に覚えています。私は、あまり英語が得意な方ではなかったので、現地の人とコミュニケーションをとることができるのか、とても不安でした。しかし、現地の人に支えられ、多くの学びを得ることができ、充実した濃い９日間を過ごすことができました。

私がこの海外派遣の中で印象に残っていることは、３つあります。

１つ目は、「アボリジニ文化体験」です。アボリジニ文化体験では、「ディジュリドゥ」という楽器について学んだり、カンガルー肉を使った料理を食べたり、ダンパーというパンを一緒に作って食べたりと様々な体験をしました。現地のアボリジニの方々の話を聞いて、先住民を大切にし、お互いの文化を尊重し合っているオーストラリアの人々の生き方がとても素敵だと感じました。

２つ目は、現地の人とのコミュニケーションです。現地の方々は、明るく、フレンドリーで、私たちの拙い英語を一生懸命理解しようと頑張ってくれる親切な方ばかりでした。そんな現地の方々の姿を見て、「コミュニケーション」への考え方が変わりました。今までは、言葉が通じ合うことがコミュニケーションだと思っていましたが、実際に海外の人と関わると、コミュニケーションの手段は言葉だけではなく、ジェスチャーもあることを知りました。

３つ目は、街を綺麗にするための取り組みです。オーストラリアは、多くの植物が生息しており、自然豊かな場所です。そんなオーストラリアでは、街を綺麗に保つための取り組みがしっかりと行われていました。具体的には、道の至る所にゴミ箱が設置されていたり、ポイ捨てをすると罰金を課せたりなどが挙げられます。綺麗な街、オーストラリアは、全員の協力から成り立っていることを知ることができました。

私は、この派遣を通して日本にいるだけではわからなかったことを学び、考え方が改まりました。言葉には表すことの出来ないくらい貴重な体験をさせてくださった引率の方々や現地の方々、ありがとうございました。この派遣で得たことは、今後の自分の人生に活かし、役立てていきたいです。

～街の壁画～

日本では見ることのできないレベルの高い壁画！！

バンバリー市だけでも、約40近くの世界トップクラスの壁画を見ることができます！
また、バンバリー市は広い通りや狭い路地に押し込まれた、色鮮やかで迫力のある壁画を散策するのに最適な環境になっているそうです。私たちは壁画のマップを見ながら数々の美しい壁画を見ることができました。

～自然豊かで綺麗な街～

パースは「世界一美しい街」とも言われるほど！！

自然環境と気候条件が数多くの花々を育み、12000種以上の植物がみられる

道の至るところにゴミ箱が設置されていて、街を綺麗に保つ取り組みが見られた

日本では見ることのできない自然豊かで綺麗な街

異文化との出会いから学んだこと

O. H.

今回、私は世田谷区の派遣団の一員として、オーストラリア・バンバリーを訪れました。初めての地に、ドキドキしながら成田空港から飛行機に乗り、約十時間かけてパース空港に着きました。時差は一時間だけでしたが、長時間のフライトで足や腰が痛くなり、とても疲れました。ホテルでは、部屋の鍵がうまく使えず、前の部屋の人に注意されるというハプニングもありました。

オーストラリアでの朝食はスクランブルエッグや加工肉ばかりで、野菜が少なく、日本との食文化の違いをすぐに感じました。その後、バスでバンバリーという町に向かいました。道が広く、草原がどこまでも続き、牛がたくさん見えました。オージービーフで有名な国だけあって、牛が移動中で一番多く見たことが印象的でした。牛以外にもオーストラリアでは、日本へ小麦、木材チップを輸出していて、日本とのつながりを実感しました。

バンバリーでのホストファミリーの家は、とても広く、プールやジャグジーがありました。現地の高校生たちとバスケットボールをしたり、みんなで遊んだりして、日本ではできない体験ができました。移動中でもよくお菓子を食べていたり、大きなケーキがキッチンにあったりして、食文化の違いをまた感じました。

現地の学校訪問では、自由な雰囲気に驚きました。授業中にマリオカートの大会をしていたり、アイスを売るお店があったりと、日本とは全く違いました。アボリジニの人たちと交流したりしました。特に、ダンパーというパン作り体験が印象に残っています。小麦の味がしっかりしていて、はちみつをかけるととても美味しく、食べ過ぎてしまう程でした。

空港に戻る前に、パース市内を散策し、昔の刑務所や捕鯨に使用していた通路などを見学し、オーストラリアの歴史に触れることができました。キングスパークでは、春の花がたくさん咲いていて、日本とは季節が反対なことを実感しました。カンガルーパウという花は、カンガルーの手の形に似ていて、とても面白かったです。

この研修を通して、私は日本とオーストラリアの違いや、それぞれの良さに気づくことができました。日本は交通が便利で、時間に正確ですが、オーストラリアは自然が豊かで、広い空間でのびのびとした生活が魅力的でした。また、人との距離が近く、あいさつもフレンドリーで、文化の違いも体験できました。この経験を通して、私はもっと世界を知りたいと思いました。そして、日本のこともっと知って、他の国の人に伝えられるようになりたいです。この貴重な体験を、周りの人にも伝えていきたいと思います。

オーストラリアの食文化
～今と昔～

現在の様々な食文化

フィッシュ&チップス
・白身魚のフライ＋フライドポテト

お酢
・オーストラリアでフィッシュ&チップスにかける甘いお酢

朝食
乳製品：ヨーグルト、牛乳
加工肉：ベーコン、ハム、ソーセージ
その他：スクランブルエッグ、ハッシュドポテト

先住民食文化

アボリジナル食文化
ダンパー…
小麦粉のみで作るパン
ピザのような作り方をする
カンガルー肉…
少し硬い

日本とオーストラリアの違い

ハイファイブ

友達といいことがあったら『ハイファイブ』といいハイタッチをする

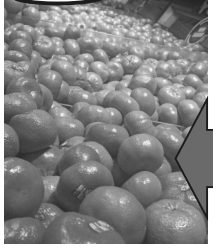
イェーイ

何かに賛同したり、『やったー』ということを言いたいときに『イェーイ』といい親指を立てる

常に何かを食べている

高身長！

生鮮食品



人件費：
オーストラリアでは人件費が高い
加工する必要のない生鮮食品は安い
たくさん、生鮮食品が並んでいる

加工食品

深めた絆

T.A.

私は今まで、この先自分が他の国に旅をすることはないだろうと思っていた。世田谷区から出て、自分の知らない言語が飛び交う知らない場所へ行くのは、とても怖いことだからだ。母の勧めで受けてみたこの海外派遣の試験に受かった日は、とても信じられず、呆然としていたのを覚えている。しかし、怖がりながらも挑戦した海外派遣は自分が想像していた 200 倍楽しく、しかも一瞬のように短く感じた貴重な体験だった。

いざ、当日になりオーストラリアに着くとそこは未知の世界だった。何を言っているのかわからないアナウンス、読めない看板、見たことのない商品と価格表記。その時の私は楽しみという気持ちより、10 日間大丈夫だろうかという不安の気持ちの方が大きかったと思う。しかし、最初の２日間でそんな不安は無くなった。なぜなら、自分が考えていたよりオーストラリアの人々はフレンドリーで優しかったのだ。私が意味がわからず、何回も聞き返しても怒らずに笑顔でゆっくり話してくれたり、何かと話しかけてくれたりと私たちをとても気遣ってくれた。自分が海外へ抱いていた想像は、実際とは全然違うということがわかり、怖がるものが無くなった。私は、そこからたくさんの人とコミュニケーションをとるようになった。２日目から始まったホームステイでは意識が変わったおかげでとても楽しく過ごすことができた。ホストファミリーと恥ずかしがらずに話し、訪れた場所で出会った人に自分から話に行くなどたくさんの現地の人と言語の壁を超えて会話することができた。そのおかげで人と話すことがあまり得意ではなかった私が帰国後、友人や家族から「明るくなったね」などと言われることが増えた。また、今まであまり関わりがなかった人にも自分から話しかけ、相手の知らなかった一面を知り仲良くなることができた。

私はオーストラリアで楽しい思い出と共に、これからの生活で大切なことをたくさん学んだ。また、海外派遣へ一緒に行ったメンバーとはもちろん、ホストファミリーや現地で関わった人達と絆を深めることができた。この先一生忘れることができない体験となった。バンバリー市で学んだことや深めることができた絆をこれからもずっと大切にしていきたい。

バンバリーの壁画
街に壁画が溶け込んでいてバンバリーの特徴の一つ
2014年以降毎年新しい壁画が追加されている
壁画達を見て回るストリートアート巡りが可能
壁画を増やすことは街を活気づけることができる
日本ではなかなか見られない景色
バンバリー市内に観光客を増やす工夫が見られた

バンバリーで得た絆
• バンバリーでは一緒に行った海外派遣のメンバーとはもちろん、現地のたくさんの人と仲良くなることができた。
• 言語の壁はあっても恥ずかしがらず、自分から話しかけに行けば絶対に仲良くなれる！！
• オーストラリアとの文化を見て、他の国の文化も見てみたくなった。

オーストラリアで学んだ創造と共生の心

S.A.

僕は今回、オーストラリア派遣団としての活動の中で、オーストラリアの雄大な自然や多様な動植物に触れ、また文化や国民性の違いを肌で感じるなど、日本にいるだけでは得られない貴重な体験をすることができました。

その中で特に強く感じたのは、オーストラリアの人々や文化がとても「クリエイティブ」であるということです。多文化社会であり、様々な人種や背景を持つ人々が共に暮らしていることから、新しい物や文化を受け入れる寛容な心が育まれているのだと思います。例えば、学校の授業では、日本でも見られる先生主導の授業に加えて、先住民のアートに親しむ活動や、自分で宝石を加工してアクセサリーを作る活動など、学生が自ら考え、行動する機会が多くあることに驚きました。なかでも印象的だったのは、僕たちが学校を見学していた際、休み時間に学生達が集まってきて、先生と一緒にマリオカートを始めたことです。その時間がプログラミングの授業に生かされていると伺い、このような柔軟で自由な発想こそ、オーストラリアの良さだと感じました。また、歴史的建造物とモダンな建築が融合した街並みや、街のあちこちに描かれた壁画など、アートを身近に感じられるのもバンバリーの魅力です。壁画を市全体で取り上げ、街を大きな美術館のようにしている取り組みは、地域の魅力を発信する上でもとても効果的だと感じました。初めてのホームステイでも、オーストラリアの人たちは皆フレンドリーで温かく、新しい事や人を受け入れる大らかさを持っていました。また、言葉や文化の違いを超えて、心がつながる温かさを実感することができました。

今回の派遣を通してオーストラリアで感じた、「クリエイティブさ」と「相互尊重・共生の心」を忘れずに、学校生活でも「教えられる」だけでなく自分から考え、実践していきたいと思います。さらに、これから世田谷区に来る外国の方々と関わる中で、異なる価値観や文化を受け入れ、認め合える様な人になりたいです。

Scenery of Australia
見て楽しむオーストラリア
NO ENTRY
伝統的な建造物と都市の現代建築の融合
背景：パースのビル群
陸や海の自然の豊かさも多様な風景を生み出している

アートの街
バンバリー
• バンバリー市では、街のあちこちで美しく、独創的な壁画やアートを見ることができる
• 市が壁画マップを作る、PRをするなど取り組んでいて、街全体が美術館のよう！
Street art map
個性豊かなアートたち！
参照：Bunbury-CBD-Mural-Trail-2022.pdf

ボランティアが当たり前にあるまち

H.M.

今回のバンバリー市への海外派遣では、現地の人々の暮らしや文化にふれ、日本との違いを実感する貴重な経験となりました。

この海外派遣を通して印象に残ったことの一つは、ボランティア活動が盛んだったことです。私たちが、バンバリー市の消防団や、水族館、博物館、様々な場所を訪れた際、ボランティアとして地域に貢献している人たちと出会いました。ボランティアの方々が、私たちに笑顔で簡単な英語でお話をしてくださった姿が心に残っています。

消防署では、私たちに山火事のことを教えてくださった方もボランティアの方でした。報酬を受け取らず、活動されているそうで山火事などの災害から地域を守っていると知り、尊敬の念を覚えました。ボランティアの方たちの消防車は白色で、職業として働く消防士の消防車の色は赤色と区別されていました。ボランティア専用の車両があるほど、本格的な活動をしていて活動が活発だということだと思います。

また、ホームステイ先の 2 人の小学生も、学校の取り組みの一つである教会のボランティアに参加していて、日曜日の朝 8 時に教会に行って礼拝のお手伝いをしていました。幼い頃から地域の活動に関わることで助け合いや協力的な心が自然と育っていくのだなと思いました。

ボランティアが特別なことではなく、日常の一部として行われていることに驚きました。オーストラリアの人々の優しさやフレンドリーな性格はこうしたボランティアの文化の影響だと思いました。

日本でもボランティア活動を目にすることはありますが、オーストラリアほど浸透していないと感じます。一人一人の小さな気持ちが積み重なり、人助けという大きな活動となって地域に貢献しているオーストラリアのボランティアの文化はとても素晴らしいものだと思います。

今回の海外派遣を終えて、世界の様々な文化や人々について知りたいという気持ちがより一層強まりました。この経験を最初の一歩としてこれからも、色々なことに挑戦していきたいです。

私が見た
オーストラリア

道端で見つけた
野生のカンガルーの群れ

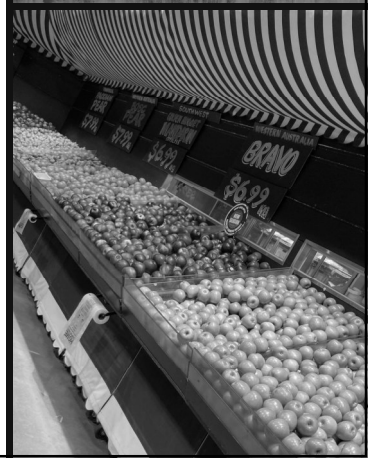
オーストラリアでは自然がとても身近にあり、人間と自然が共存していると感じました。

キングスパークから見た
午後4時半の帰宅ラッシュ

夜の9時にはホストファミリーみんなが寝てしまい、夕方の4時半には帰宅ラッシュが始まるなど日本とは違う生活リズムに驚きました。

キロ単位で売られている
色とりどりの果物

バンバリーで食べた果物はとても美味しかったです。



「文化の違い」を
実感したこの海外派遣

オーストラリアでは、人々が自然と共に暮らし、ゆっくりとした生活リズムの中で毎日を楽しんでいることが印象的でした。
みんな、自分の個性を大切にしていてお互い尊重していると感じました。

「Bunbury Catholic College」にて
学校案内をしてくれたり、一緒に鬼ごっこをしたりしました。
英語で話すのは緊張したけど、たくさん話せて嬉しかったです。

「市長歓迎夕食会」
ホストファミリーとの最後の時間。
食事を楽しみながら別れを惜しみました。

文化の違いを通して、自分の考え方や行動を見直すきっかけにもなりました。
オーストラリアの人たちのフレンドリーで優しい心を見習い、これからの生活にいかしていきたいと思います。

私の 10 日間

K. T.

令和 7 年度オーストラリア派遣で特に印象に残った 3 つのことを紹介します。

1 つ目はホームスティについて紹介します。ホームスティ先では、同じ年の子どもと両親の 3 人家族でした。初めは言葉の壁や文化の違いもあり、上手くコミュニケーションがとれるか不安でした。しかし、家族の皆さんがとても親切に接してくれたおかげで、すぐに打ち解けることができました。特に、同じ年の子とはすぐに仲良くなり、日本から持っていったお土産を渡した時にはとても喜んでくれて、私も嬉しい気持ちになりました。今でもその子とはメッセージのやり取りをしていて、日本で再会する約束もしています。たった 3 日間の滞在でしたが、こんなに仲良くなれるとは思っていなかったので、本当に貴重な経験になりました。

2 つ目は「サウス・ウェスト・ジャパン・フェスティバル」です。私は真ん中で踊ったり、最初の「かまえ！」という掛け声を担当したりと、大切な役割を任されていました。そのため、多くの人の前で披露することにとても緊張していました。ですが、現地に修学旅行で来ていた高校生たちが盛り上げてくれたこともあり、緊張よりも楽しい気持ちが多く、自分たちの中で一番良い踊りができたと思います。大勢の前でパフォーマンスすることは簡単なことではありませんでしたが、その分やりきった達成感があり、素晴らしい思い出となりました。

3 つ目は現地の学校見学です。見学を始めたばかりの頃は、お互いに話しかけることができず、なかなか交流が上手くいきませんでした。しかし、勇気を出してこちらから話しかけてみたことで少しずつ会話が生まれ、一緒に外で遊んだり、昼食をとったりと、楽しく過ごすことができました。相手の言っていることがすべて理解できたわけではありませんが、言葉の壁をこえて交流できたことがとても嬉しく、心に残っています。

今回の派遣では、普段の学校生活ではなかなか経験できないような貴重な体験をすることができました。他の国の人々との関わり方や、文化や食事の違いなど、たくさんのことを学ぶことができました。これからの生活の中でも、今回の学びをしっかりと活かしていきたいと思います。

オーストラリアは赤身の肉が多くヘルシーな味になっていてソーセージは意外にもジャンキーな味でした。日本ではお肉とご飯を一緒に食べることが主流ですが、オーストラリアでは、お肉にポテトやパンを添えることが多いです。

食文化の違い

～スーパー～

オーストラリアのスーパーで売っている野菜は日本と違い、kg単位で販売していることが多いです。

大きい！

食文化

～オーストラリア～

このパンはフェアリーブレッドという薄切りした食パンにバターを塗りその上にカラフルスプリンクルを振りかけたものです。オーストラリアで有名な菓子パンです。

このお肉はカンガルーのお肉です。カンガルーのお肉は高タンパク、低脂質なお肉です。食感は意外にも柔らかく、牛ロースのような味でした。みんな美味しいと言いながらたくさん食べていました。

このお菓子はティムタムというオーストラリアの定番のチョコビスケットです。

～オーストラリアでの特別なティムタムの食べ方講座～

①ビスケットの両端を少しずつかじりストローのようにします。

②温かいコーヒーにティムタムを浸します。

③中のクリームにコーヒーが浸透したら、ティムタムを使って飲みます。

オーストラリアの会話

H.M.

オーストラリアで驚いたことを挙げようとするとキリがないのだが、1番と言えるのはやはり「人との距離」だと思う。

例として私のホストファミリーを挙げよう。彼らは物凄かった。「初めまして」を言ったと思ったら、一瞬で距離が無くなって、数時間後には一緒に映画を観ていた。日本ではあり得ないことだろう。

オーストラリア人がすぐ人と打ち解けられるのは二つの理由があると思う。

一つ目は自分の考えを伝え、認め合うことだ。日本では「流れ」を重要視する傾向がある。「ノリ」などもその一種である。「周りがAと言っていたからAにする」と言うのが日本人の考えることだ。別にこれは悪くない。無駄な諍いを簡単に回避する方法の一つだし、なんと言っても使うエネルギーが最小限で済む。しかし、オーストラリアでは「周りはAというが、私はBがいい」という主張が一般的に根付いているようだ。このコミュニケーション方法は、時には争いを起こし、消費するエネルギーも大きい。しかし、自分が思ったことを言えないと、新しいアイデアやデザインは生まれていかない。自分の考えと相手の考えをぶつけ合って、お互いを認めることでオーストラリア人はとても深い人間関係を築いていけるのだろう。

二つ目は、言語だ。日本語には敬語があり、その中に丁寧語、尊敬語、謙譲語に分かれ、その中でも複雑に分岐していく。簡単にいうならば、日本語は敬語を使い分けすぎている。日本人は初対面の人や、目上の人、ましてや同級生にまで敬語を使う。敬語を使うと丁寧な印象を持たせることができるがその反面、よそよそしさや疎外感を感じさせやすい。ここで英語を見てみよう。これはオーストラリアに限った話ではないのだが、英語には「敬語」が存在しない。存在するのは私では使い方のわからない「丁寧な表現」のみだ。もし、ホストファミリーが日本語を理解していたら、私はずっと敬語のままでいただろう。しかし、ホストファミリーと初対面の時から、私はいわゆる「タメロ」で話していた。だからこそ、一瞬で距離を縮めることができ、気軽に話すことができたのだ。

このように私はオーストラリアでの「コミュニケーション」に大きな感銘を受けた。派遣団としてオーストラリアにいく前と後で、言語に関わらず、「人の流れ」に身を任せることと、「人と対話すること」への恐怖感が全く無くなったと感じた。今回得たことを活かして、もっと多くの人と会話をしてさまざまな考えを取り込んでいきたい。

オーストラリアは全てが大きい！

〈街・家〉

↑川沿いにある公園広場。ほとんどの屋外スポーツができる程、ずっと芝生が続いている。

←土地があるから個人個人の私有地が大きい。これらは全部ホストファミリーの敷地。（ゴルフ場、テニスコート、ビリヤード）リビングだけで日本のマンション一室ぐらいの広さ。

オーストラリアは全てが大きい！

〈食べ物〉

→どこでもクッキーやドーナツが売っている。なぜオーストラリアのお菓子は、全部美味しいのだろうか。とても甘くてとても美味しい

↓滞在中1番食べた食事かもしれない。「フィッシュ&チップス」想像の二倍ぐらい大きい。とても美味しい。

圧倒的カロリー

←これはホテルで食べたラザニア。どの料理でもポテトが付いてくる。

引率者より

経験は価値ある財産　―バンバリー中学生教育交流派遣を通して―

松沢中学校　校長　大塚洋一

「経験は価値ある財産である」という言葉があります。１８世紀ドイツの詩人、レッシングの言葉です。成功した経験は、自分の大きな自信になり、自己肯定感を高めます。それだけでなく、視野や考え方を広げ、人生に大きな影響を与えます。また、失敗した経験も成功への貴重な糧となるでしょう。今回のバンバリー中学生教育交流派遣は、まさに価値ある財産となる経験でした。

ホームステイでは、言葉が通じない不安、初めて会う他国の人々、どんな生活なのかわからない緊張感など生徒たちは多くの不安を抱えていました。しかし、別れの時には、別れを惜しむ姿がありました。その様子を見て経験の素晴らしさ改めて感じましたし、バンバリー市職員の方々の配慮、ホストファミリーの優しさと温かい心遣いがあったからこそ、不安が「別れがたい心情」へと変化したのだと思います。

次に、空港からの移動や施設への移動の際に目にした広大な大自然。その光景は、日本にも自然はあるのに、オーストラリアならではの雄大さを感じさせました。そこで学んだのは、オーストラリアには多くの固有の動植物が生息しているということです。今も固有種が存在しているのは、様々な条件があってのことだと思いますが、それと同時に先住民の代から現代に至るまで、人々がオーストラリアの人々が自分の国を守ってきたからに違いありません。

今回のスローガン「Step into the World　～つなげよう文化のバトン～」の想いを、この自然、この国の姿勢から学んだこと、そして日本の良さとは何か再確認したこと、それを未来へとつなげていってほしいと思います。前回の派遣団の先輩方が「この経験を通して見方・考え方が大きく変わった」と語っていました。今回の派遣団の生徒たちも、きっと同じように感じ、さらに成長してくれると期待しています。

素晴らしいバンバリー体験記

砧中学校　尾田　敏子

今回の海外派遣事業に引率教員として参加させていただき、この上ない幸せを感じました。何よりもこの事業を通して素晴らしい生徒たちに出会えたことそして、バンバリー市でお世話になった皆様の温かさが私にとってはかけがえのないものとなりました。生徒たちはお互いの仲を深めようとコミュニケーション能力を最大限に発揮し、こちらからの要望に一生懸命応えようと、意見を出し合ったり、相談したりしている姿は微笑ましく、また、心強くも感じました。派遣団として、自分たちの役割を果たすとともにより良いものを作り上げようという一人一人の強い意志がみられました。

私が特に心に残ったのは生徒たちが３回披露したアトラクションです。十分な練習ができないまま市長表敬訪問で本番を迎え、市長を始め市議会議員の方々が見守る中、緊張気味ではありましたが、堂々と披露することができました。その日の夕方のサウス・ウエスト・ジャパンフェスティバルで２回目の披露。ソーラン節が踊れると言った現地のオーストラリア人の生徒を突然受け入れることになってもすぐに打ち解け、何の違和感もなく一緒に踊り終えたことに感銘を受けました。これこそが国際交流であり、初めて会った現地の生徒と躊躇なく交流できる世田谷区の生徒たちを誇りに思いました。その晩、アトラクションの成功の余韻に浸る間もなく期待と不安を抱えながらホームステイ先へと向かいました。ホームステイを終えた２日後、生徒たちは自然と英語が話せるようになっていて驚かされました。順応性が高く、１ヶ月もしたらすぐに英語が話せるようになると確信しました。

バンバリー市は自然が豊富で、ホームステイ先では庭先に餌を求めて集まる鳥の鳴き声で目が覚めました。野生のカンガルーがいる野原の反対側には河口が広がり、まさに大自然の中にいるんだと実感させられました。オーストラリア人の生活は日が昇ると始まり、日が沈むやいなや動物も人も家路に着き、家族との時間を大事にすると言った感じで、文化の違いを感じました。働いている人は誰もいないのではないかと思うくらい静寂な夜でした。そして、夜空に輝く満天の星に圧倒され、この同じ空の下で人間は皆つながっているんだと感じました。

最後に、この事業のための準備やこのような機会を与えてくださった全ての関係者の方々に感謝申し上げます。文化・国際課の皆様を始め、校長先生、先生方、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

Step into the World　～つなげよう文化のバトン～

富士中学校　萱嶋　あき

９月１９日正午、区役所前で生徒たちが解散する姿には、久しぶりに保護者と再会できた安堵以上に、この１週間を共に過ごした仲間との別れを惜しむ寂しさが感じられた。６月１５日に教育総合センターで決定通知書を受け取った際の緊張した表情からは想像できなかったほどであり、それだけ今回のオーストラリア派遣事業が、彼らにとって刺激的で濃密な経験になったのだと実感した。

派遣中に印象に残った場面をいくつか紹介したい。まず１つ目は、生徒たちの英語に対する意欲の高まりである。今回から週末のホームステイが実施され、生徒の多くが「うまくコミュニケーションが取れるだろうか」と不安を抱いていた。しかし、受け入れ家庭はバンバリー市の魅力を伝えるために綿密に計画してくださり、生徒たちはそれぞれに充実した時間を過ごすことができた。週明けの集合場所では、別れを惜しんで涙を流す姿も見られ、かけがえのない経験になったことがうかがえた。ある生徒は、英語でのやりとりに苦しみながらも翻訳機能を使って懸命に会話を続け、最後には自分の言葉で感謝を伝えようとしていた。その後の学校見学やワークショップでも、現地の学生や講師に自ら話しかけようとする生徒の姿が何度も見られ、成長を感じさせた。２つ目は、バンバリー市の方々の温かさである。市長訪問では、多忙の中、市長をはじめ職員の方々が施設や運営方法を丁寧に説明し、生徒を歓迎してくださった。その後の歓迎夕食会も、時間をかけて準備していただき、たいへん充実した時間となった。また、学校視察やワークショップでは、どの方も中学生にわかりやすく、興味を持ちやすい工夫をしてくださったことが印象的であった。

今回の派遣事業が成功するように尽力してくださったバンバリー市長をはじめとする関係者の皆様、そして文化・国際課の担当の方々への感謝を忘れず、この事業が今後も続き、姉妹都市としての文化交流がさらに深まることを願う。また、この事業に参加できたのは、応募を後押ししてくれた学年主任、派遣中に業務を支えてくれた学年・英語科教員の協力があったからこそである。派遣団のスローガンにもあるように、私もバトンの一人として、今回の経験を胸に、これからも英語科教員としての職務を全うしていきたい。

関連資料

KAYA-GOOMBURRUP-NYALUP-BUNALUP-KALGUP-KOONBANUP
YONGKA-WETJ-KAARDA-NYINGMOK-BIBBOOL-KOOMAL-KUNDA-YORKUNKA
DIDI-DIDI-KOOLBARDI-WANITJ-DOONART-MALI-VOONITJ-WARDONG-WUNG
DULDIT-KWILENA-KWILI-BUMBA-KARI-DULLI-BUNE-YOOKAK-NEP
MOORT-NGOON-DOOK-MAMANUL-NGAR NGK-KABALY-YORAN-BOTJ

バンバリー市の概要

人口＝約 3.2 万人　　面積＝約 65 ㎢

バンバリー市は、西オーストラリア第 2 の都市で、インド洋に面したオーストラリア南西部の主要な港町として栄えました。豊かな大自然に恵まれ、市内ではカンガルーなど野生の動植物に出会うことができます。一方、市街地から徒歩圏内には海水浴のできるビーチがあり、マリンスポーツが盛んに行われています。

世田谷区とは世田谷区の小学生がバンバリー市を訪問したことがきっかけで交流が始まり、1992 年 11 月に姉妹都市提携が結ばれました。その後、小・中学生を対象とした教育交流、お互いの国の音楽や写真を通した文化交流、市民マラソン大会へ相互に参加するスポーツ交流など、様々な交流が続いています。

2022 年には、姉妹都市提携 30 周年という節目の年を迎え、ますます交流の輪が広がっています。

参 考

○　東京とバンバリーとの時差　－1 時間

○　東京からバンバリーまでの所要時間（シンガポール経由航空路）　約 12 時間

世田谷区とバンバリー市の交流の歩み

1991.10.28-31	世田谷区小学生海外派遣開始（その後毎年派遣）
1992.11.10	世田谷区議会議場で姉妹都市提携調印（大場区長、アーネスト・マネア バンバリー市長）
1993.4.28-5.5	世田谷区民がオーストラリア・マスターズゲーム・ドラゴンボート大会参加
1993.6.23-28	区内音楽団体がバンバリー市・アイステッドフォド（音楽祭）に参加。伝統芸能を披露
1994.5.11-18	世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加
1995.5.3-8	世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加
1995.9.3-30	世田谷区民写真展入賞者作品をバンバリー市交流写真展に展示（その後 2 年に一度双方の都市で実施）
1995.10.2-5	バンバリー市中学生が区内の学校を訪問、生徒の家庭にホームステイ
1996.5.20-24	バンバリー市長および訪問団来訪
1996.10.1-6	バンバリー市小学生が区内の学校を訪問、生徒の家庭にホームステイ（その後毎年来訪）
1997.11.6	バンバリー市議会議場で姉妹都市提携 5 周年確認宣言書署名式実施
1998.11.11-13	バンバリー市長および訪問団来訪
1999.9.26-10.1	バンバリー市中学生バスケットボールチーム来訪。区内中学校チームと親善試合実施
2000.8.2-6	バンバリージャズバレエ団来訪、区民まつりに出演
2002.5.14-18	バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 10 周年確認宣言書署名式実施
2002.11.6-8	バンバリー市にて姉妹都市提携 10 周年記念式典実施
2007.6.11-16	バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 15 周年確認宣言書署名式実施
2007.10.31	バンバリー市にて姉妹都市提携 15 周年記念式典実施
2007.11.18	世田谷 246 ハーフマラソンにバンバリー市から招待選手が参加
2008.5.14-21	世田谷区民がバンバリー市マラソン大会に参加（その後毎年派遣）
2009.9.25-28	バンバリー市高校生が区内の学校を訪問。区内でホームステイ
2010.11.18-24	世田谷 246 ハーフマラソンにバンバリー市から招待選手が参加（その後毎年来訪）
2012.6.10-18	バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 20 周年再確認宣言書調印式実施
2012.10.27	バンバリー市にて姉妹都市提携 20 周年記念式典実施
2013.9.27-30	バンバリー市中学生が来訪。区内でホームステイ
2014.11.17-19	オーストラリア姉妹都市会議に参加
2016.9.15-24	第１回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 15 名、引率 5 名
2017.1.14-22	バンバリー市中学生親善訪問団来訪
2017.10.30	バンバリー市にて姉妹都市提携 25 周年記念式典実施
2018.5.9-16	バンバリー市長および訪問団来訪。世田谷区議会議場で姉妹都市提携 25 周年再確認宣言書調印式実施
2018.9.10～9.23	第２回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 20 名、引率 4 名
2019.1.11～1.25	バンバリー市中学生親善訪問団来訪
2020.4～2023.3	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により直接交流休止（マラソン交流のみオンライン実施）。

2022.11.10	姉妹都市提携 30 周年（コロナ禍につき親善訪問・式典等は中止）
2023.9.8-17	第３回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 12 名、引率 4 名
2023.11.30-12.1	バンバリー市長来訪
2024.9.23-10.2	バンバリー市小学生親善訪問団来訪再開（その後毎年来訪）
2024.11.10	世田谷 246 ハーフマラソンにバンバリー市より招待選手来訪再開（その後毎年来訪）
2025.9.11-19	第４回中学生親善訪問団バンバリー市訪問　生徒 14 名、引率 4 名

令和7年度世田谷区姉妹都市中学生教育交流事業

（オーストラリア・バンバリー市）

活動報告書

令和8年3月発行

編集・発行　世田谷区　生活文化政策部　文化・国際課
〒156－0043　世田谷区松原 6－3－5
Tel 03－6304－3439　Fax 03－6304－3710
広報印刷物登録番号 NO. 2424